

教育の柱は、ユニット・スマート・ハートフル 既成概念を超え、学校ごとの教育改革を支援

兵庫県 加古川市教育委員会 教育長 こみなみ **小南克己**

こみなみ かつみ 1984年、行政職員として兵庫県庁に入庁。兵庫県教育委員会教職員課課長、同総務課課長、兵庫県立加古川南高校校長、同加古川東高校校長等を経て、2019年4月から現職。

加古川ならではの教育を 3つの柱で追求

本市は、2010年度に「かこがわ教育ビジョン」を策定し、「ともに生きるこころ豊かな人づくり」を目標として教育施策を進めています。2022年度の「教育アクションプラン」では、「ユニット」「スマート」「ハートフル」の3つの柱で施策を整理し、“加古川ならではの”学びのあり方を追求しています。

「ユニット」は、中学校区を1つのユニットとして学校園や地域の連携・協働による「生きる力」の育成、「スマート」は、協同的探究学習やICT教育の充実、グローバル人材の育成など、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改革、「ハートフル」は、多様性と包摂、人権教育、いじめや不登校対策といった心の教育を目指しています。

今の世の中で最も大切だと考えるのは、「ハートフル」です。最近の子どもは自己肯定感が低く、人より目立つこと、枠を飛び出すことを恐れる傾向があります。一人ひとりが

個性を生かして、自分らしく生きていくことができる環境をつくるために、また、平和で豊かな社会を実現するためには、子どもが多様性と包摂の考え方、基本的人権をしっかり理解することが大切です。

それらの実現に向けて、「教育アクションプラン」では15の重点目標を掲げました。喫緊の課題は、不登校の子どもへの支援です。本市でも不登校の子どもが増加しており、中学生では2021年度に約6%に及びました。支援の一環として、2022年度から、別室指導を行う「メンタルサポーター」を小学校3校にも増員し、計15人を市の予算で採用して、不登校の子どもが多い小・中学校に配置しました。また、野外体験など、学校外での居場所の充実も図っています。週1～2回、公民館で地域ボランティアや退職教員、指導主事などが学習支援にあたる取り組みも始めました。現在は1か所ですが、2023年度は3か所に増やす予定です。

人口減少が進む市北部では、2024年度の開校を目指し、義務教育学校りょうせう「両荘みらい学園」の設置準備を進めています。9年間を4・3・2年の

ステージに分けて、小学校段階から一部教科担任制とし、9年間一貫の英語教育、探究活動を通して地域の魅力を学ぶ「ふるさとみらい科」など、独自の教育課程を編成します。

「協同的探究学習」で 課題発見・解決力を育む

授業改革では、10年前から市を挙げて協同的探究学習に力を入れています。中でも重視しているのが、多様な考え方や解法のある「非定型問題」です。例えば算数では、教員が公式を教え、それを丸暗記するのではなく、既に習った四角形の面積計算の知識を駆使して、自分たちで三角形の面積の求め方を検討し、発表し合うなど、探究活動の手法で課題に取り組んでいます。社会で必要とされる「現状を分析して課題を発見・解決できる力」や、主体的な活動に不可欠な「自己肯定感」を育むために、自分の考えを人前で発表する協同的探究学習は効果絶大です。

グローバル人材の育成に向けては、ALTやICTを活用し、生きた



英語に触れる機会を多く設けています。英語は習得に時間がかかるので、子どもが英語を好きになり、授業以外でも主体的に学ぶことが大切です。「楽しい」「通じた」といった成功体験を積み重ねられる施策を立てました。

小学校では、子どもが家庭でも好きな時間にロールプレイングで英会話を楽しめるICTツールを導入するとともに、音声認識システムを使ったパフォーマンステストを実施しています。中学校では、生徒4人に対し1人のネイティブ・スピーカーと25分間、オンライン英会話を楽しむ機会を年4～6回設けました。そこで培った力を把握し、課題を明確にするために、ALTと1対1で行うパフォーマンステストや、スコア型英語4技能検定を実施しています。加えて、夏季休業中には、ALTと1対1で英会話に挑戦する「ENJOYチャレンジ」や、ALTと英語だけで1日過ごす「イングリッシュ・デイキャ

ンプ」も行っています。

そして、すべての教育活動を支えるものとして、ICTの整備にも力を入れています。家庭や校外学習でも1人1台端末を活用できるよう、通信環境は、LTE方式と光回線のハイブリッド仕様としました。

既成概念にとらわれず、 各学校の課題に応じた改革を支援

今後は、各学校の課題に応じた施策を推進していきます。家庭の経済状況や教育水準、地域の協力体制などはそれぞれ異なるので、各学校が校長を中心に自校の課題を見いだして改善策を立て、教育委員会はその取り組みを惜しみなく支援することが、問題の迅速な解決につながるからです。

外部人材や民間事業者の活用も大切です。例えば、水泳の授業は民間事業者に委託していくことで、子ども

の水泳技能の向上を図るとともに、水道代・設備改修費や教職員の負担を軽減できるものと考えています。

また、少し年上のお兄さんやお姉さんが活躍する姿を見て、学びへの意欲を高めてほしいと考え、県立高校の生徒が小学校で英語の授業やサイエンスショーを行う取り組みを始めました。兵庫大学とも協定を結び、2023年4月に新設される教育学部の学生が、大学1年次から市内の小学校で教育実践や補助業務を行えるようにしました。教職を目指す学生の技能向上と、学校の人手不足解消によるWin-Winの関係を目指します。

改革で大切にしているのは、“Let’s think outside the box.”（既成概念にとらわれず考えよう）です。社会が激変する中、教育委員会も学校も変わらなければなりません。これから常識にとらわれず、先生方や子どもとともに教育の質の向上に取り組んでいきます。

兵庫県加古川市 プロフィール

◎兵庫県南部に位置する施行時特例市。市内を貫流する加古川により古くから発展し、西国街道の宿場町として栄えた。全国に先駆けて、まちのデジタル化に力を入れ、スマートシティの実現に取り組んでいる。多くの棋士を輩出した「棋士のまち」としても知られる。人口 約25万8,000人 面積 138.48km² 市立学校数 小学校28校、中学校12校、特別支援学校1校 教員数 1,234人 児童生徒数 約2万500人 電話 079-427-9354 (学校教育課)